



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
発行責任者 宮島喜文
編集責任者 深澤憲治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
ホームページ <https://www.jamt.or.jp>

P1~P2 令和5年度 地域貢献賞 受賞コメント

P3 令和5年度 認定救急検査技師制度 第1回指定講習会（関東）開催報告

令和5年度 地域貢献賞 受賞コメント

地域貢献賞は各支部において、長年に亘り臨床検査を通じて住民の健康保持、増進に寄与したと認められた方に対する表彰です。表彰対象者は、表彰を受ける年の4月1日の時点において永年職務精励賞受賞者で、各支部にて推薦し、表彰委員会を経て、理事会にて決定されます。

6月24日（土）に行われた令和5年度定時総会にて表彰式が行われ、受賞者の皆様からのコメントを紹介いたします。

※表彰の対象者及び選考基準の詳細は当会「表彰規程」をご参照ください。

北日本支部

磯辺 正道

日臨技 地域貢献賞、表彰の栄をいただきまして誠にありがとうございます。

北海道臨床衛生検査技師会事業の企画・運営に携わり、多職種連携のための臨床検査技師能力開発講習会をはじめタスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会、業界の連携を鑑みた臨床検査改革セミナー等の責任者をさせていただきました。各地区会員の皆様に支えられながら共に楽しく活動できたことは大きな励みとなっております。

現在は大学教育に携わっておりますので、地域貢献や人の為に研鑽できる臨床検査技師の育成に励んで参ります。

受賞に際して、日臨技、北日本支部、北臨技の皆様衷心より感謝とお礼申し上げます。ありがとうございました。



関甲信支部

篠塚 洋明

この度は、地域貢献賞を賜りまして誠にありがとうございます。

ご推薦いただきました埼玉県臨床検査技師会の皆様方には、そのご支援の賜物であることを心より厚く御礼申し上げます。

また、これまで研究班活動や精度管理調査など埼玉県の技師会活動の一端ではありますが微力ながら協力できたことと、その活動を一緒に支えてくださった方々に対しても、深く感謝を申し上げます。

私の職場である医師会センターは、医師会共同利用施設として全国に160施設以上あって、検査・健診事業を行政と二人三脚で取り組んでおり、その地域住民の健康増進のために活動しております。



今回の受賞は、そのような同じ立場の検査技師たちを代表していただいたものだとも思っております。ありがとうございました。

関甲信支部

早川 寿美

この度は地域貢献賞を賜りまして誠にありがとうございます。私にとりまして、この賞は技師としての40年を振り返る貴重な機会となりました。

技師会の事務局長をしたことから、多くの技師会事業に携わらせていただき、多くの方々と出会い、支援していただき、今回の受賞を迎えられたという思いでいっぱいです。

今回の受賞にあたり日臨技、関甲信支部の方々、そして一緒に活動していただいた山梨県臨床検査技師会の皆様へ心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



首都圏支部

脇田 智恵子

この度は地域貢献賞を賜り誠にありがとうございました。

ご推薦いただきました皆様には心より感謝・御礼申し上げます。

1976年から、地域の健診業務に従事してまいりました。船橋市主導で始まった、地域住民の健康に対する意識向上を目指す健康展ヘルシー船橋フェアは2019年で32回の開催がなされていますが、開催初期の運営に携わり、千葉県臨床検査技師会の協賛事業として確立する役割を果たすことができ、臨床検査を知っていただく良い機会になりました。平成19年度より始まった休日街頭HIV抗体検査、エイズ予防デイへの参画など意義深いものでした。地域住民を対象とした公開講演会の企画運営も、技師会活動の中で重要な役割を果たすものでした。



新型コロナウイルスの災禍の中、図らずも臨床検査技師の社会的認知度向上があったことは周知の事実です。微力ながら地域の皆様の健康の向上に関わることができたことは幸いです。最後に日本臨床衛生検査技師会の益々のご発展を心より祈念いたします。ありがとうございました。

首都圏支部

国松 誠

この度は地域貢献賞を賜りましてありがとうございます。

神臨技理事として2期4年、精度管理事業を担当。退任後も実行委員長、総括、協力者、アドバイザーと役を変えながら約10年間に渡り微力ながら県内施設の精度向上に貢献させてもらって来ました。

神奈川県は登録衛生検査所を管理する県庁からの委託と技師会独自の調査事業の合同事業という特殊性で難しい面があり苦労も多くありましたが、それを乗り越えてこられたのも各部門研究班、理事会、県庁担当者ほか多くの会員の方々のご協力があったこそ、そして何より愛する家族の理解と献身にあらためて感謝いたします。本当にありがとうございました。

中部圏支部

油野 友二

この度は、地域貢献賞を賜りありがとうございます。身に余る光栄です。40年余りの病院勤務の多くの時間を技師会との繋がりの中で過ごしてきました。1990年の第40回学会・金沢で運営委員として多くのことを学び、感動しました。志が同じ者は、ワクワクしながら大きなことに挑戦できる。それを伝えたくて石臨技、中臨技、日臨技と活動をする中で、いつの間にかこの受賞にたどり着きました。でも、まだ終わりではありません。集大成は、来年の金沢で…

近畿支部

清水 隆之

やった～！地域貢献賞ありがとうございます！改めまして、この度は地域貢献賞を賜り誠にありがとうございます。ご推薦いただきました関係各位には心より御礼申し上げます。

30年にわたる“献血推進活動”や“全国「検査と健康展」”を始めとした“各市健康展”、がん検診啓発活動である“がんフォーラム”の開催、他職種の医療団体と共催した府民公開講座など様々な渉外活動を通じて、地域の健康推進活動に少しはお役に立てたかと感じています。

今回の受賞がゴールではなく、さらに若い方々と一緒に、“お邪魔にならないように”コッソリと地域での、技師会渉外活動を続けさせていただきたいと思えます。

今回の受賞にあたり、日臨技、近畿支部の方々、また共に活動してきた大阪府臨床検査技師会渉外部委員や役員、会員の皆様へ心より感謝・御礼申し上げます。ありがとうございました。



中四国支部

原 正樹

この度は、地域貢献賞を賜り誠にありがとうございます。受賞に際し、推薦いただきました皆様方に心より感謝いたします。二十数年技師会活動に関わる中、今回の受賞は、臨床検査技師として宇和島市を中心に展開している、認知症に関する理解を深めていただくための健康講座の講師や自治体を含めた認知症予防イベントへの参加等の啓発活動、医療介護の多職種連携事業への関わりについて評価されたものと受け止めております。

今後も、地域の方々が認知症になっても安心して暮らせる住みやすい町作りや、より良い医療介護連携のお手伝いができるように地道な活動を続けていきたいと考えています。再度、このような賞をいただき、心より感謝申し上げます。



中四国支部

前 かをり

この度は、地域貢献賞を賜り誠にありがとうございます。

私は検査センターで30年あまり微生物を担当してきました。

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、2020年7月に新型コロナウイルスPCR検査の地域の受け皿になるべく準備を開始し、トレーニングも含め1か月の準備期間を経て、スタッフ2人でPCR検査を始めました。その後7人に増員し、ピーク時は、地域の150～280の医療機関から約1,000件/日、広島県からの依頼で無症状者の唾液検体をプールで約5,000件/日受託し、当日の夜間から翌朝にかけて検査を実施することで翌日報告を実現してきました。

臨床検査技師として微力ながら地域に貢献でき、私自身も良い経験となりました。

ご推薦いただきました関係者の皆様に感謝申し上げます。



九州支部

本田 雅久

この度は、地域貢献賞を賜り誠にありがとうございます。

臨床検査技師生活を始めて40年以上経ちますが、受賞のお知らせをいただき、その歳月を改めて実感いたしました。入職から今まで、地域の一般検査、生化学・免疫検査、遺伝子検査そして微生物検査の学術部門のスタッフあるいは部門長として、多くのことを学び、そして多くの出会いがございました。

現在は今までの経験を活かし、他職種のスタッフと地域や院内の感染防止活動を行っておりますが、今後もさらなる成長を目指し精進していきたいと存じます。

最後に日臨技の皆様、ご推薦いただきました福岡県臨床衛生検査技師会の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



令和5年度 認定救急検査技師制度 第1回 指定講習会(関東)開催報告

テーマ：症候としての胸痛・腹痛とその初期診療

認定救急検査技師制度は、救急患者の診療において適時かつ適切に対応することができる臨床検査技師の育成ならびに知識と技術の普及のために設立された認定制度です。

認定救急検査技師制度指定講習会は、救急診療の情報を把握し救急診療を理解すること、救急患者に対して現状の検査機器を有効に用い安全・迅速・円滑・適切な検査ができる技術や知識、といった認定救急検査技師に必要な知識・技術を習得するため、認定試験受験及び資格更新に受講が必須となっています。

受講者の声

尻無濱 真子（中東遠総合医療センター）

私が勤めている病院では当直業務があり夜間は一人での検査を行っています。そのため、結果を送信するときに漠然な不安がありました。今回の講習会に参加したことで自分の知識不足を再認識し、これまでの業務の中で実際には必要のない再検査や取り直しの依頼をしていたのだと感じました。また、救急医療の奥深さを知ることができ、とても良い経験になったと思います。静岡県は南海トラフ地震での被害が大きいとされている県であるため、検査結果が患者由来であるのかまたは患者以外の要因でなっているのかを判断し、臨床に早く結果を報告することができるように備えておかなければいけないと思います。何かあったときに医療従事者として動くことができるようにこれからも救急検査をより深く学び、日々の業務に活かしていきたいと思います。

新谷 陽子

現在、救急に関わる検査には従事していません。医療従事者ですが、恥ずかしながらBLSの知識に乏しいという時に行動できるようになりたいと思ったのが受講の目的です。職場でも外でもその場に居合わせた人が救命処置をしなければ助けられないことや救急



ペットボトルを使ったBLS実技講習の様子

隊の到着が年々遅くなっていること。妊婦にもためらわずAEDを使用していることや、女性に対する配慮やCOVID-19流行下における注意点など迷った時の対処法なども教えていただき、とても実りある時間でした。胸骨圧迫も周りに人がおらず、交替できなければ体力がかなり必要です。いかに早く応援を呼ぶかも大事なことだと改めて感じました。救急検査に関しては、検査室でデータを見るだけでは心筋梗塞を考える症例でしたが、実際は心損傷であった症例が印象に残りました。検査技師も現場に行くことの必要性やチーム医療の重要性を学びました。

第3回 指定講習会(中部)受講者募集中！

事前参加登録締切：8月20日

テーマ：症候としての腰・背部痛疾患とその初期診療 ～大動脈疾患、消化器疾患を中心に～

会期：令和5年9月10日（日）8時55分～16時40分

会場：愛知県名古屋市東区 リップルスクエア

※ご興味のある方は是非お申込みください。詳細は当会HP「日臨技認定センター」からご確認いただけます。
<https://www.jamt.or.jp/studysession/center/system08/>

（編集後記）新型コロナウイルス感染症も5類感染症の位置づけとして移行され約3ヶ月経ち、世間では各種イベントなども以前のように開催され、我々の学会や研修会も現地で開催されつつあり、わたくしも何回か参加しているのですが、その中で特に思うことは、現場でのディスカッションや交流はもちろんですが、特に、今まで参加できなかった若い世代の皆様の笑顔や眼の煌めきがとても素敵で感銘を受けております。まだまだ、医療業界は感染対策には留意しながら開催や参加をしなければいけません、このまま若い世代の活躍できる場を提供できるような環境であることを心から祈っております。（芹澤）